

本市の交通事故の現状について

2 交通事故の現状

(1) 全国、栃木県、宇都宮市の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生件数及び死者数、負傷者数は、全国的に減少傾向にある。

本市の交通事故発生件数、負傷者数は減少傾向となっており、発生件数、負傷者数とも平成26年に昭和45年以降の最少値を記録している。

本市の死者数は、平成26年に昭和45年からの最少値である13人より4人増加したものの、総じて減少傾向にある。

また、交通事故発生件数の減少率は平成22年との比較で、栃木県▲36.2%、宇都宮市▲35.4%と全国の▲20.9%と比べ高い。

【全 国】

項 目		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
発生件数	件 数	725,903	692,056	665,138	629,021	573,842
	増 減	▲11,725	▲33,847	▲26,918	▲36,117	▲55,179
死者数	人 数	4,922	4,663	4,411	4,373	4,113
	増 減	▲46	▲259	▲252	▲38	▲260
負傷者数	人 数	896,294	854,610	825,396	781,494	711,374
	増 減	▲14,921	▲41,684	▲29,214	▲43,902	▲70,120

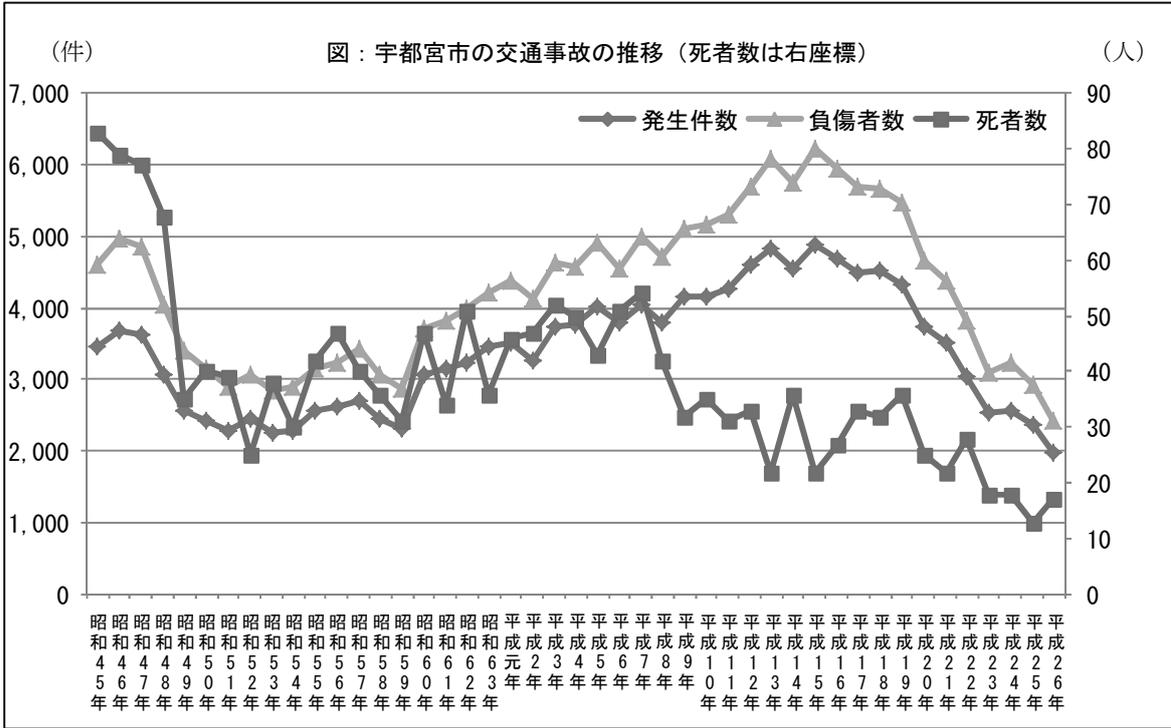
【栃木県】

項 目		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
発生件数	件 数	10,053	8,413	8,054	7,437	6,413
	増 減	▲679	▲1,640	▲359	▲617	▲1,024
死者数	人 数	146	111	94	101	102
	増 減	25	▲35	▲17	7	1
負傷者数	人 数	12,815	10,721	10,263	9,389	8,027
	増 減	▲941	▲2,094	▲458	▲874	▲1,362

【宇都宮市】

項 目		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
発生件数	件 数	3,043	2,535	2,576	2,363	1,966
	増 減	▲460	▲508	41	▲213	▲397
死者数	人 数	28	18	18	13	17
	増 減	6	▲10	0	▲5	▲4
負傷者数	人 数	3,831	3,102	3,225	2,938	2,416
	増 減	▲540	▲729	123	▲287	▲522

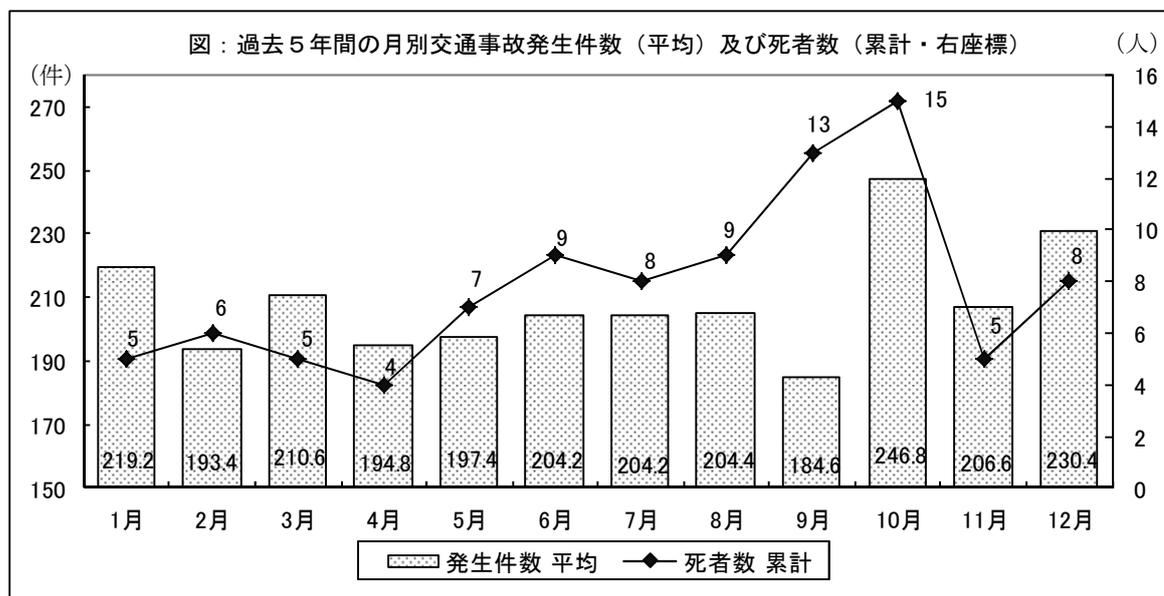
(資料：宇都宮市の交通事故)



(資料：宇都宮市の交通事故)

(2) 月別交通事故発生状況

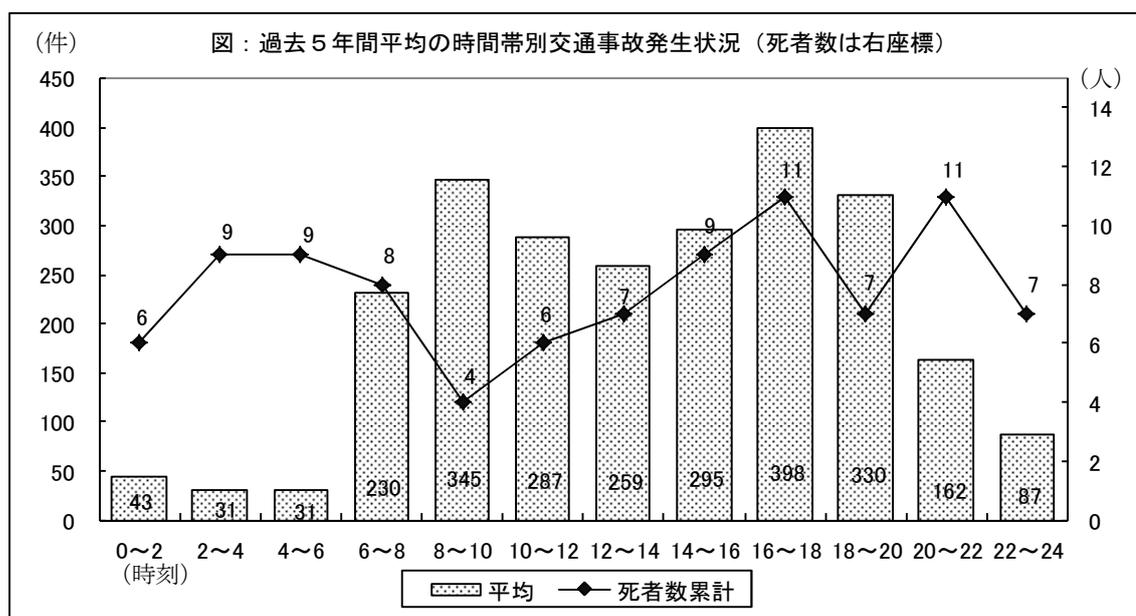
月別の交通事故発生状況は、過去5年間（平成22～26年）では、発生件数（平均）、死者数（累計）とも10月が多い。また、死者数の特徴として、夏から秋にかけて増加する傾向にある。



(資料：宇都宮市の交通事故)

(3) 時間帯別交通事故発生状況

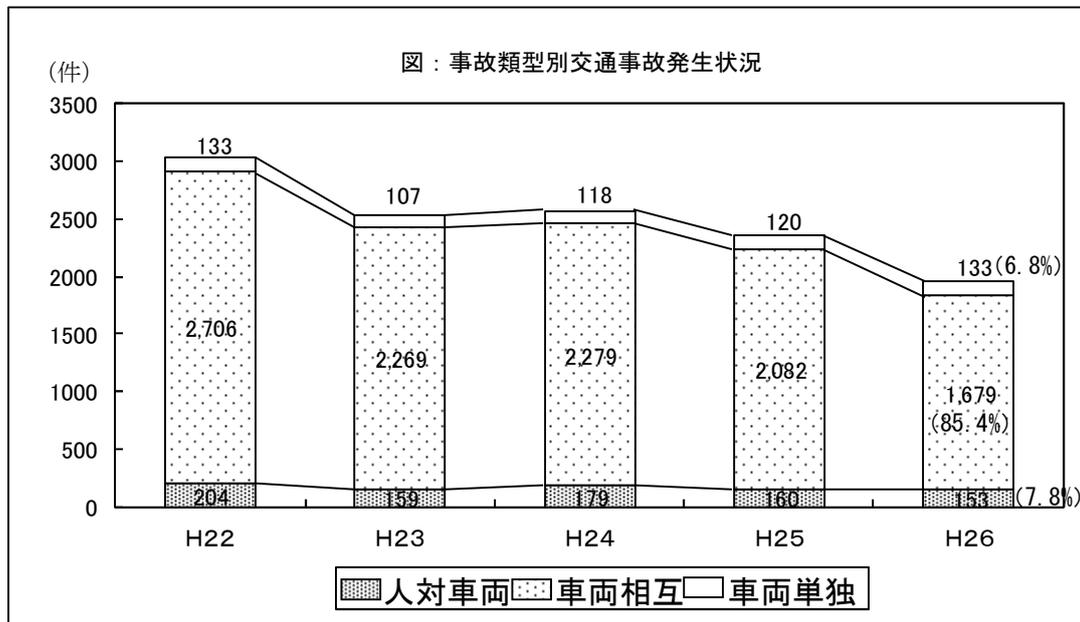
時間帯別の交通事故発生件数は、過去5年間（平成22～26年）平均では朝夕の通勤・通学（8～10時）及び帰宅（16～18時）の時間帯に多い。死者数では、日中（8～18時）よりも夕方から朝方（16～8時）にかけて多い状況となっている。



(資料：宇都宮市の交通事故)

(4) 事故類型別発生状況

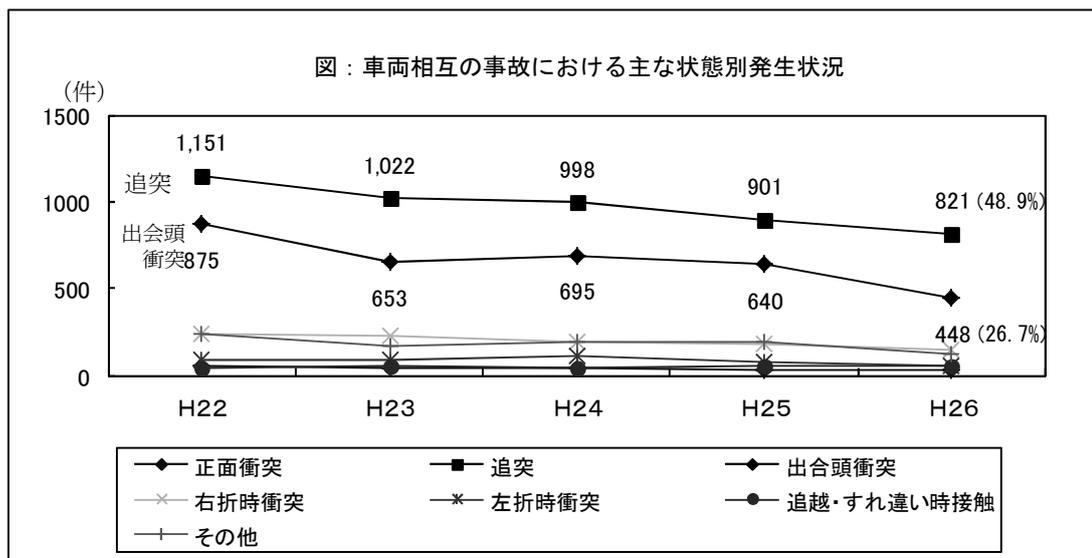
事故類型別交通事故発生件数は、車両相互が85.4%を占める。車両単独による事故が平成23年以降増加傾向となっている。



(資料：宇都宮市の交通事故)

(5) 車両相互の事故における主な状態別発生状況の推移

車両相互の交通事故では、「追突」「出合頭衝突」によるものが、75.6%を占めているが、平成22年と比べると「出合頭衝突」による事故が約半分に減少している。

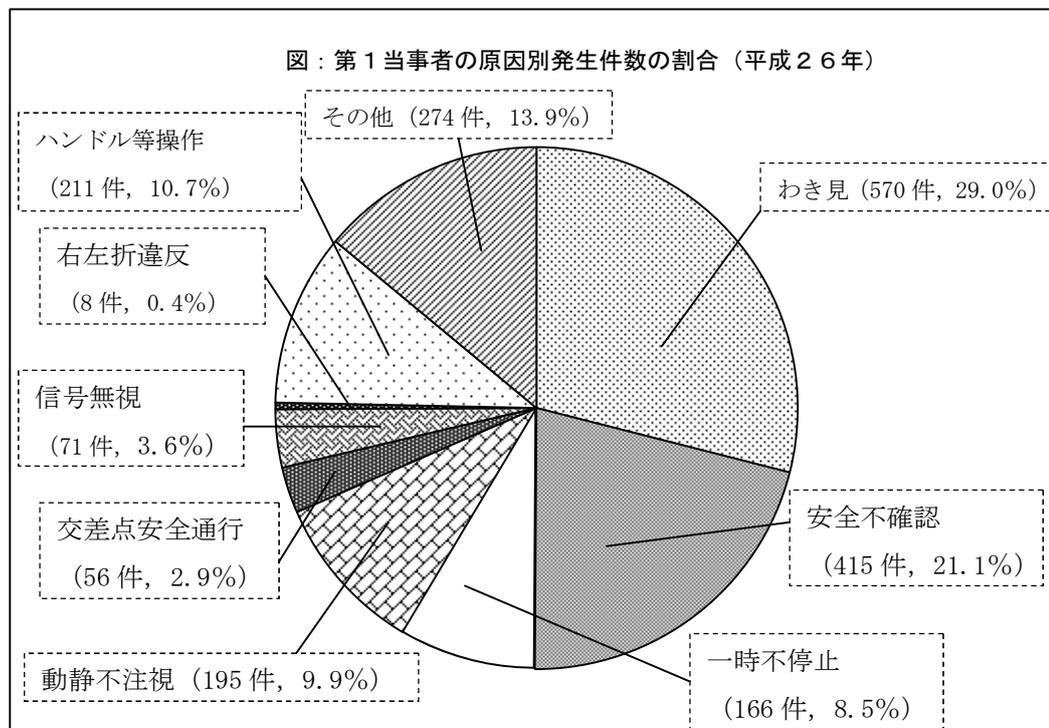


(資料：宇都宮市の交通事故)

(6) 第1当事者の原因別発生件数の割合（平成26年）

（第1当事者：交通事故に関係した者のうち、過失が最も多い者）

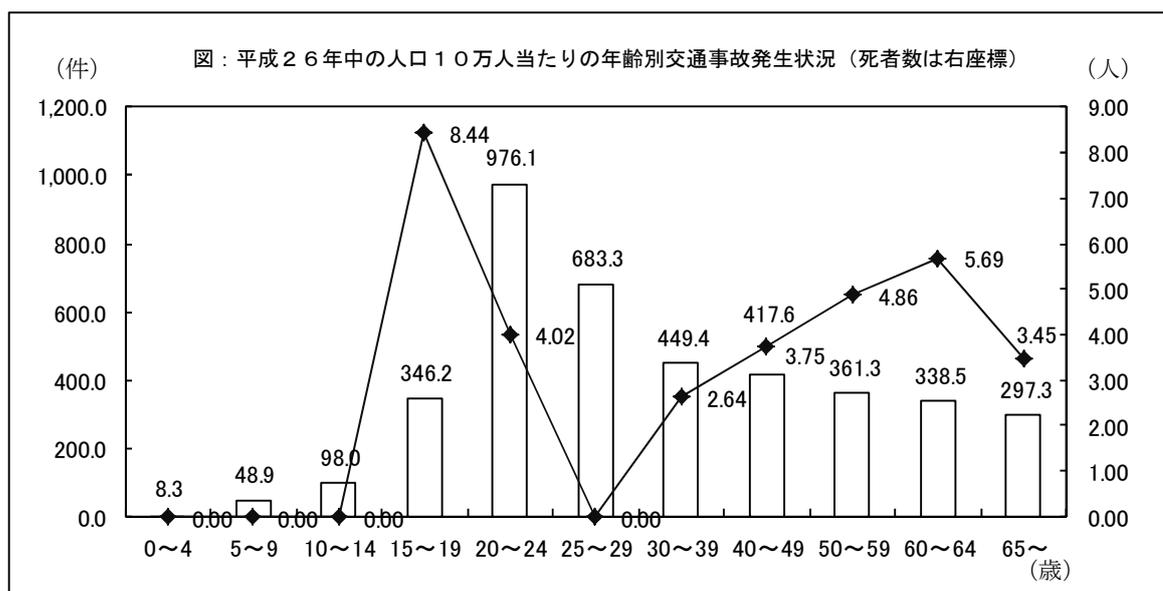
「わき見」「安全不確認」が全交通事故の50.1%を占めている。



（資料：宇都宮市の交通事故）

(7) 人口当たりの年齢別交通事故発生件数

人口10万人当たりの第1当事者の年齢別発生件数は「20～24歳」が最も多く、高齢の世代となるほど減少傾向となっている。死者数は、「15～19歳」が最も多く、「60～64歳」「50歳代」と続いている。

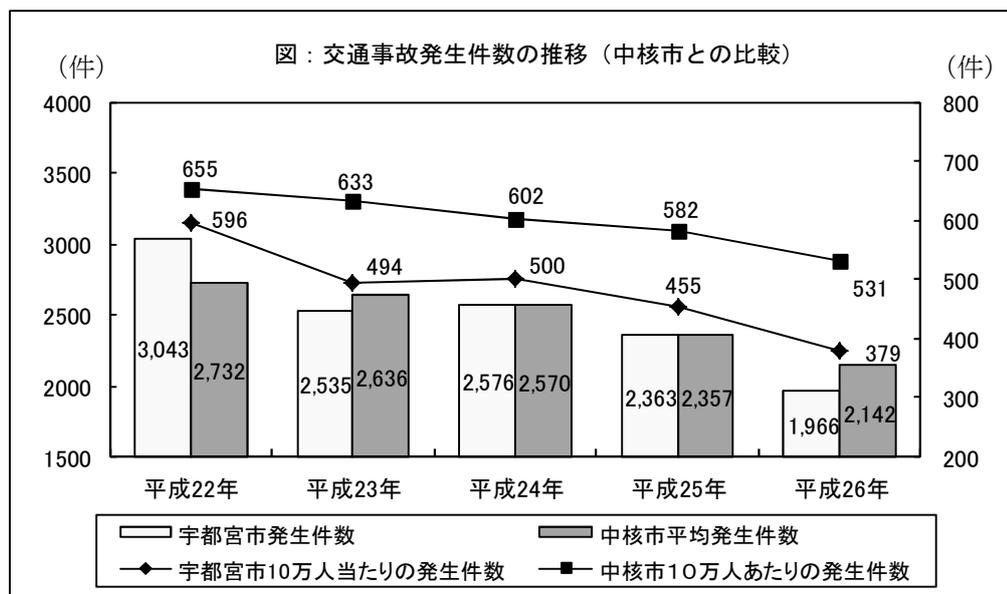


（資料：宇都宮市の交通事故）

(8) 中核市との比較

【発生件数】

本市の交通事故発生件数、10万人当たりの発生件数とも中核市の平均を下回っており、平成26年中は43中核市で10位となっている。平成22年と比較した本市の減少率（36.4%）は、中核市平均（18.9%）より高い状況にある。

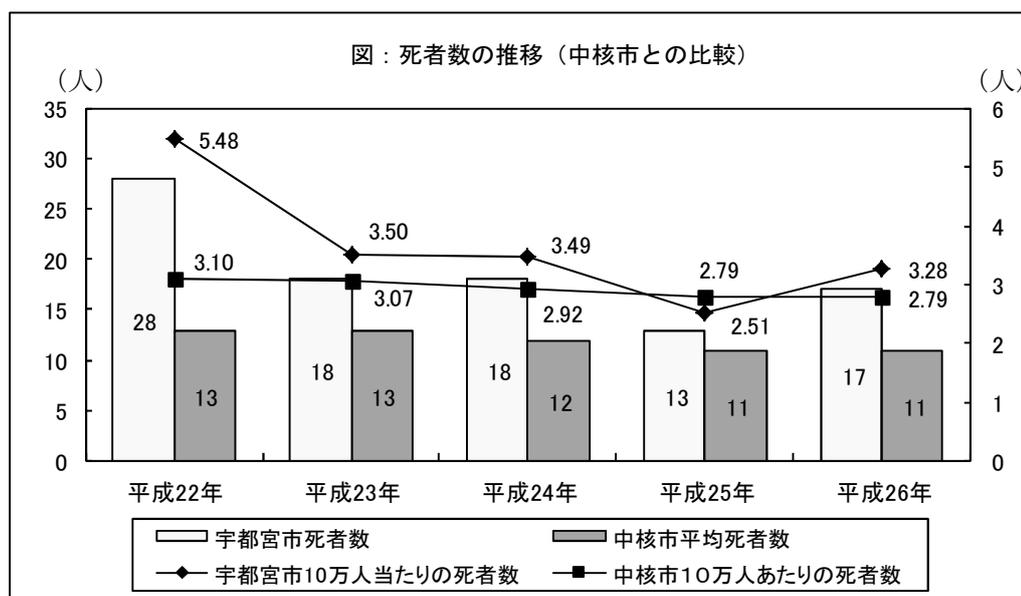


（資料：宇都宮市の交通事故）

【死者数】

平成25年の10万人当たりの死者数は中核市平均を下回ったものの、平成26年は交通事故死者数、10万人当たりの死者数とも中核市の平均を上回っている。

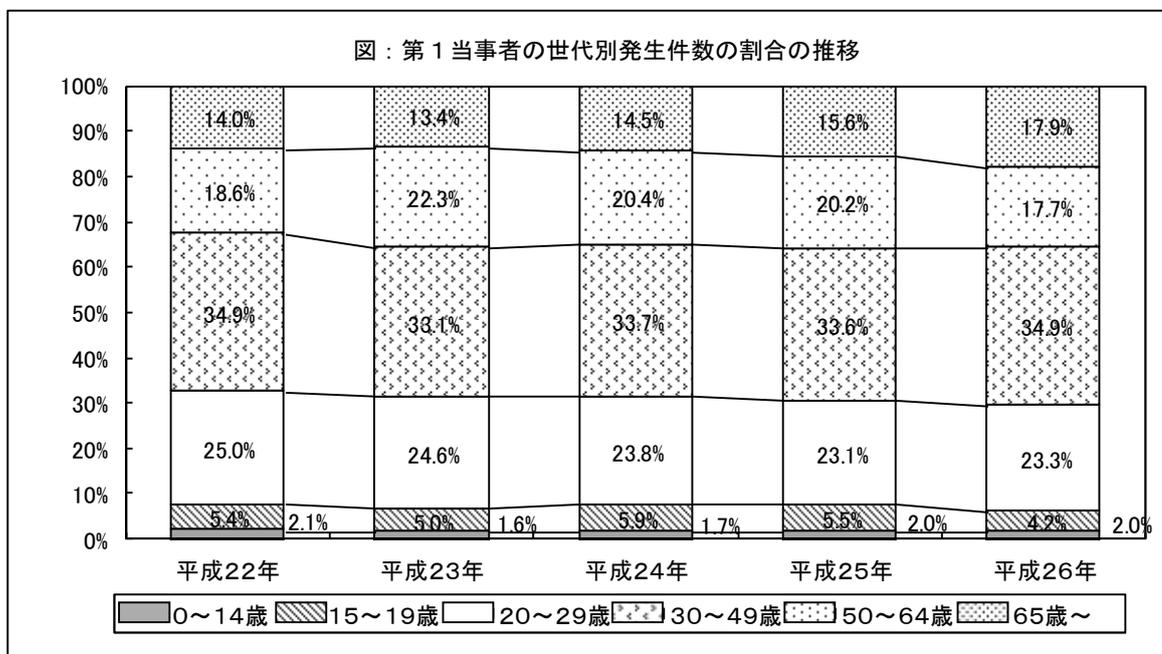
平成26年中は43中核市で27位となっている。



（資料：宇都宮市の交通事故）

(9) 世代別交通事故発生状況

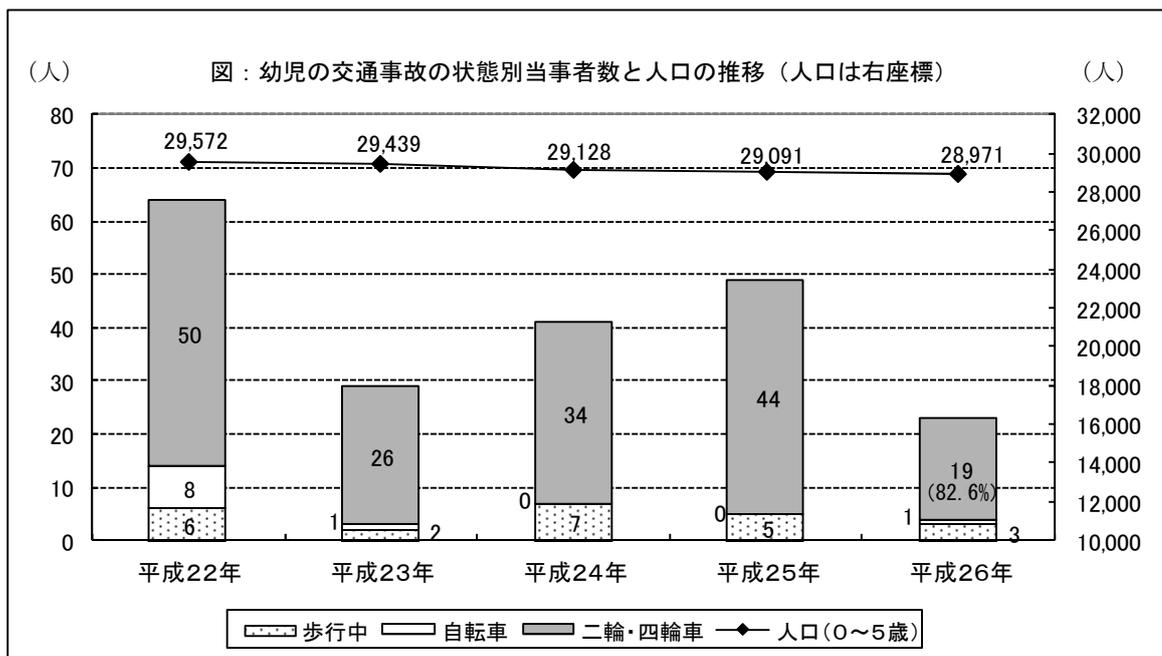
第1当事者の世代別の割合では、高齢者（65歳～）が占める割合が増加傾向となっているが、その他の世代については、ほぼ横ばいとなっている。



(資料：宇都宮市の交通事故)

① 幼児の交通事故

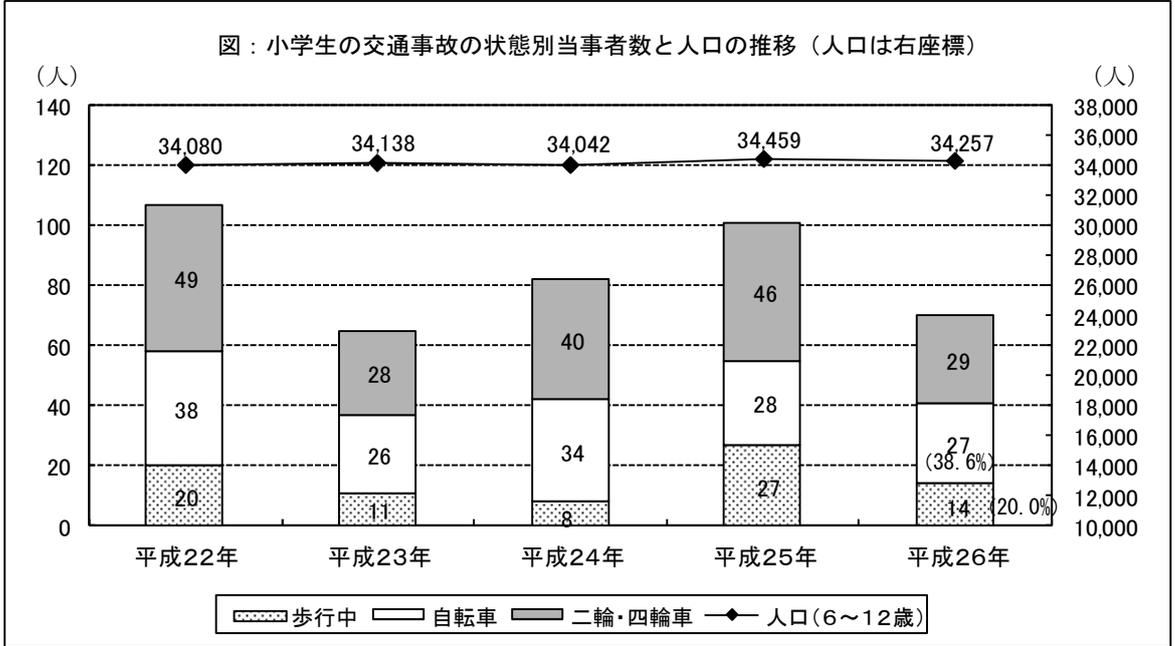
人口は、緩やかに減少しており、当事者数は平成22年と比べ減少している。状態別では二輪・四輪車乗車中が82.6%占めている。



(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故)

② 小学生の交通事故

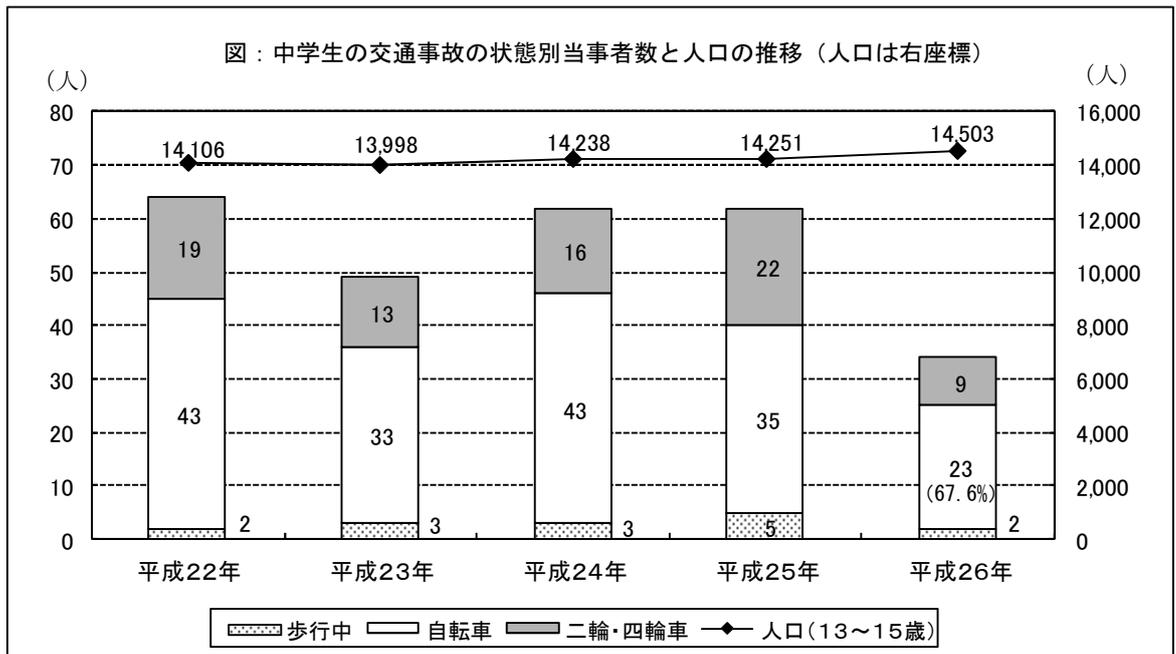
人口は、横ばい状態であるが、当事者数は平成22年より減少している。状態別では、歩行中、自転車乗車中が58.6%を占めている。



(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故)

③ 中学生の交通事故

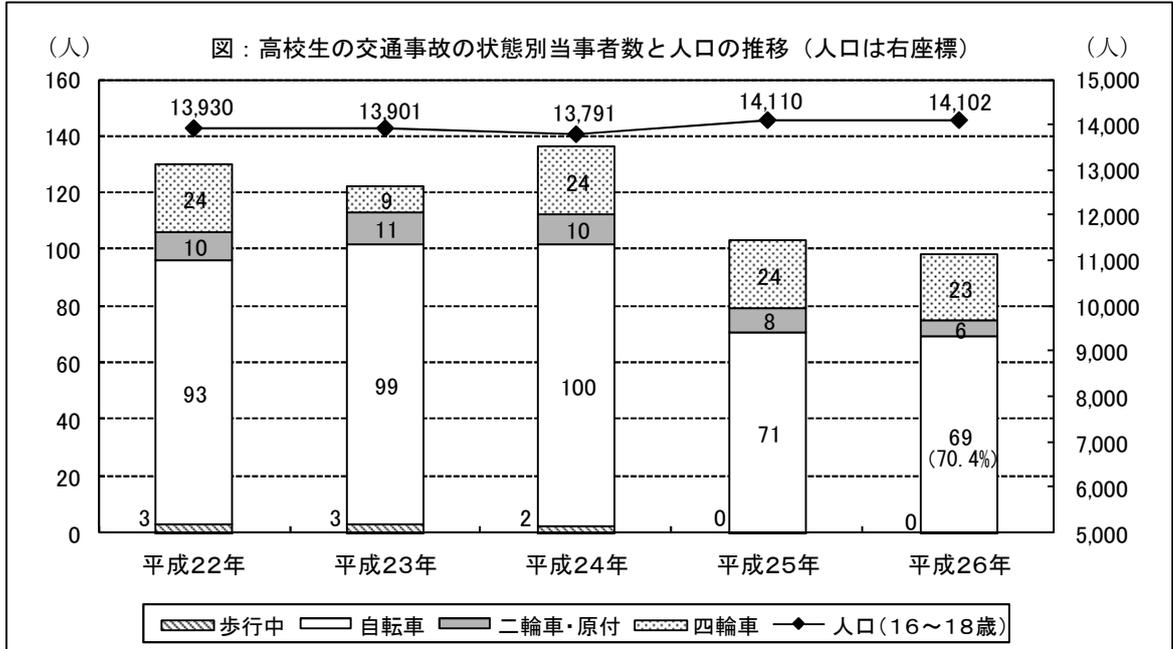
人口は緩やかに増加しているが、当事者数は平成22年の約半分にまで減少している。状態別では自転車乗車中が67.6%を占めている。



(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故)

④ 高校生の交通事故

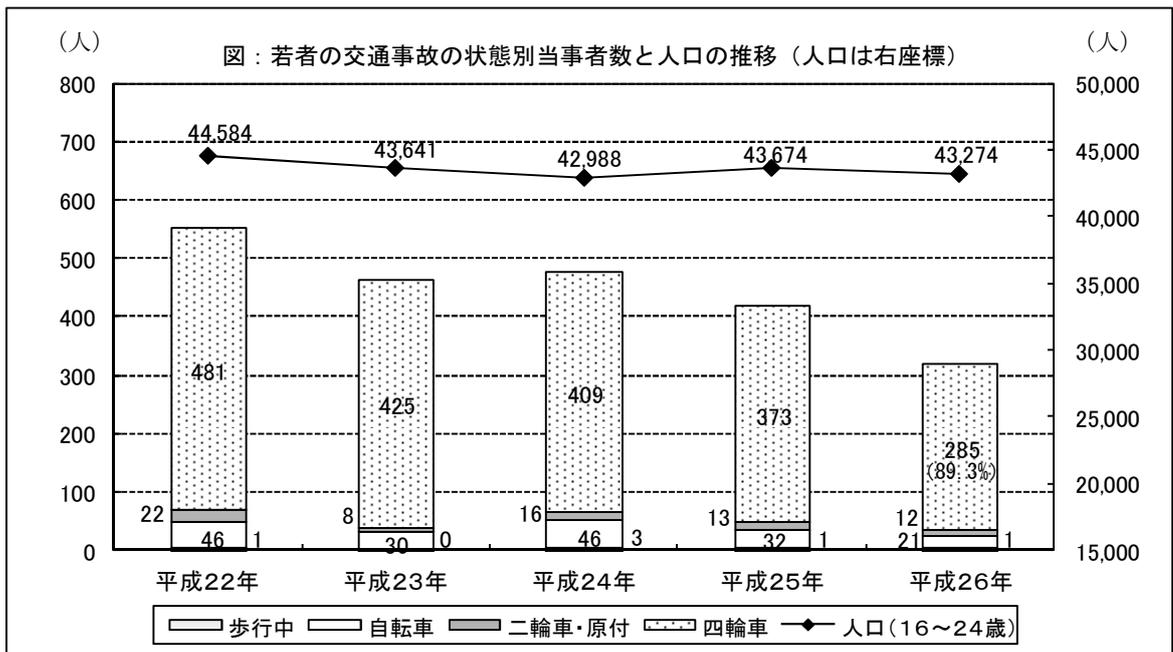
人口は横ばい状態であるが、当事者数は減少している。状態別では自転車乗車中が70.4%を占めている。



（資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故）

⑤ 若者（16～24歳）の交通事故

人口、当事者数ともに減少傾向となっている。状態別には四輪車乗車中が89.3%を占めている。

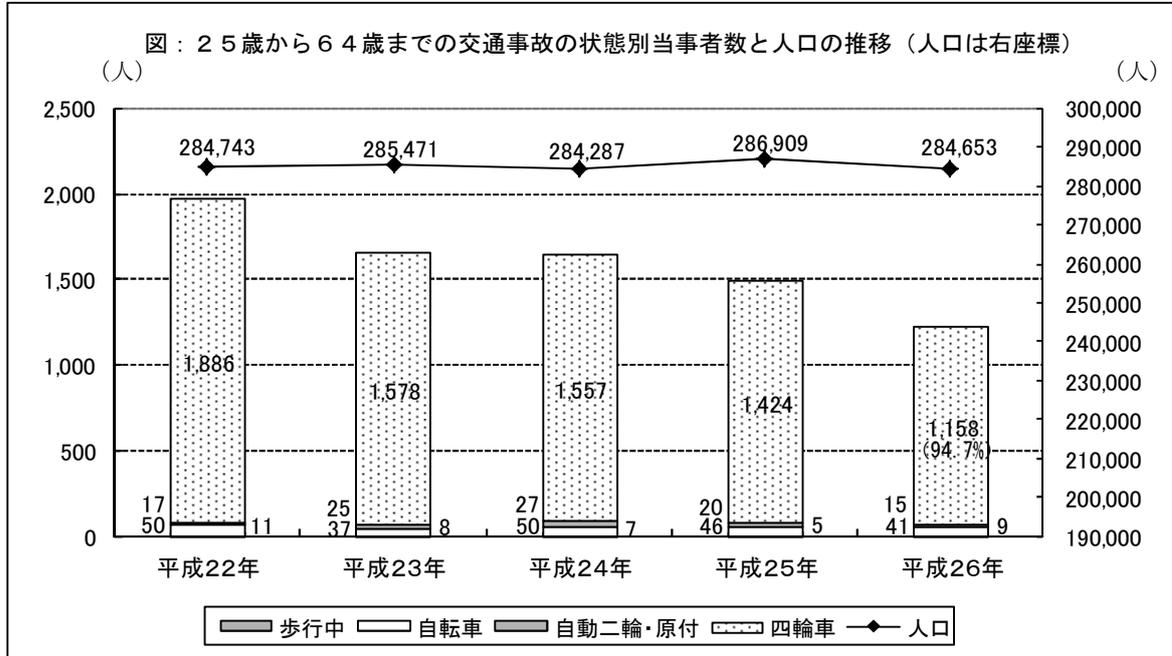


（資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故）

※ 注）若者の交通事故は第1当事者のみ

⑥ 25歳から64歳までの交通事故

人口は横ばい状態であるが、当事者数は減少している。状態別では四輪車乗車中が94.7%を占めている。



(資料：人口=住民基本台帳，交通事故の状態別人数=宇都宮市の交通事故)

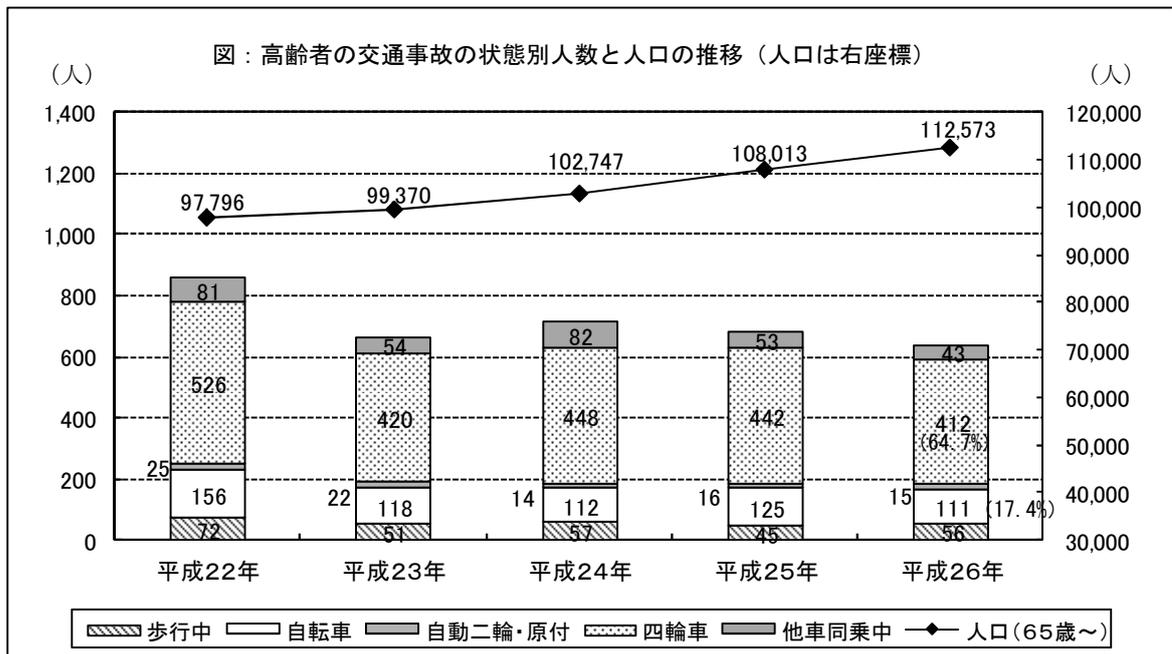
※ 注) 25歳から64歳までの交通事故は第1当事者のみ

⑦ 高齢者の交通事故

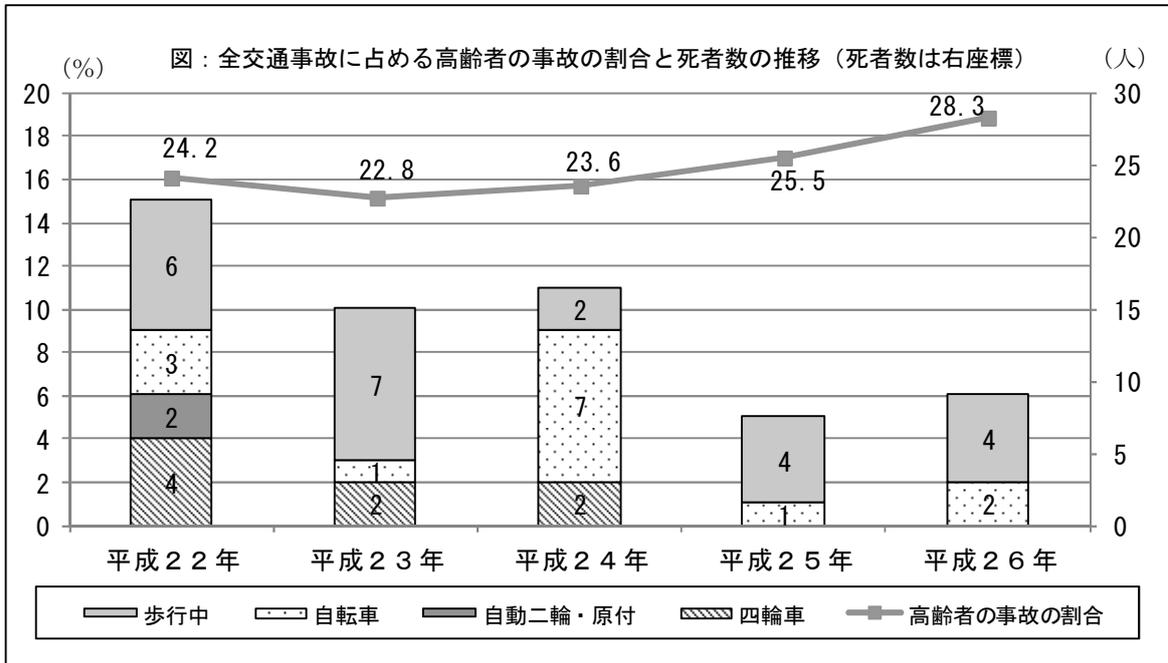
人口は増加しているが、当事者数は減少傾向にあり、状態別に見ると四輪車乗車中が64.7%、自転車乗車中が17.4%を占めている。

高齢者の交通事故の全交通事故に占める割合は、増加傾向となっている。

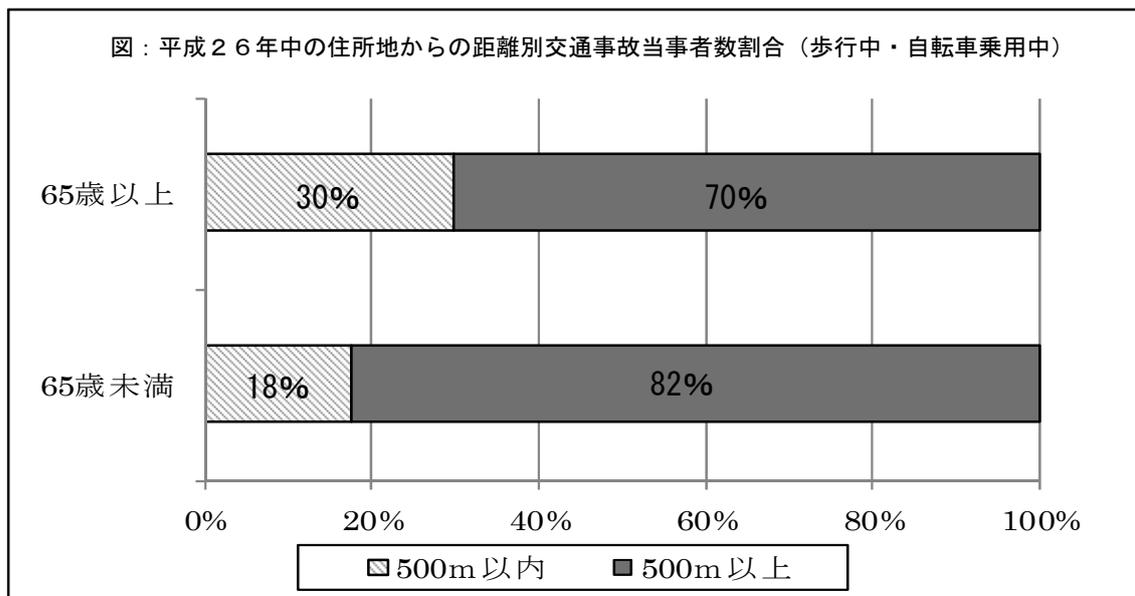
また、歩行中、自転車乗用中の事故では、他の年代に比べ自宅から500m以内で事故に遭う割合が高い。



(資料：人口=住民基本台帳，交通事故の状態別人数=宇都宮市の交通事故)



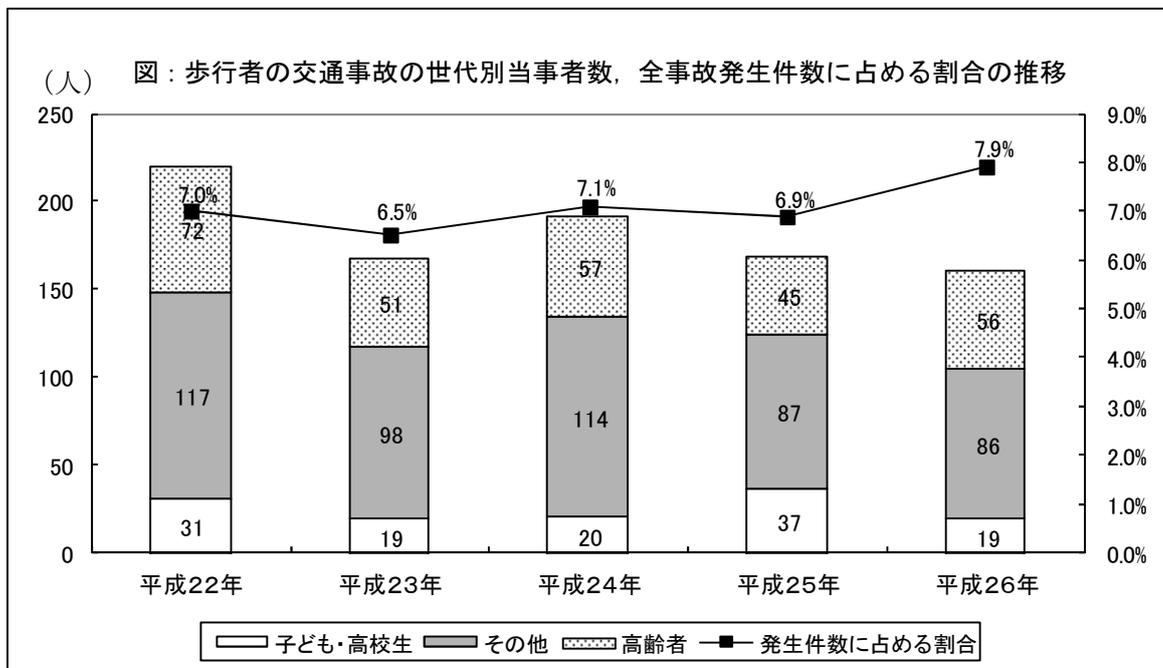
(資料：宇都宮市の交通事故)



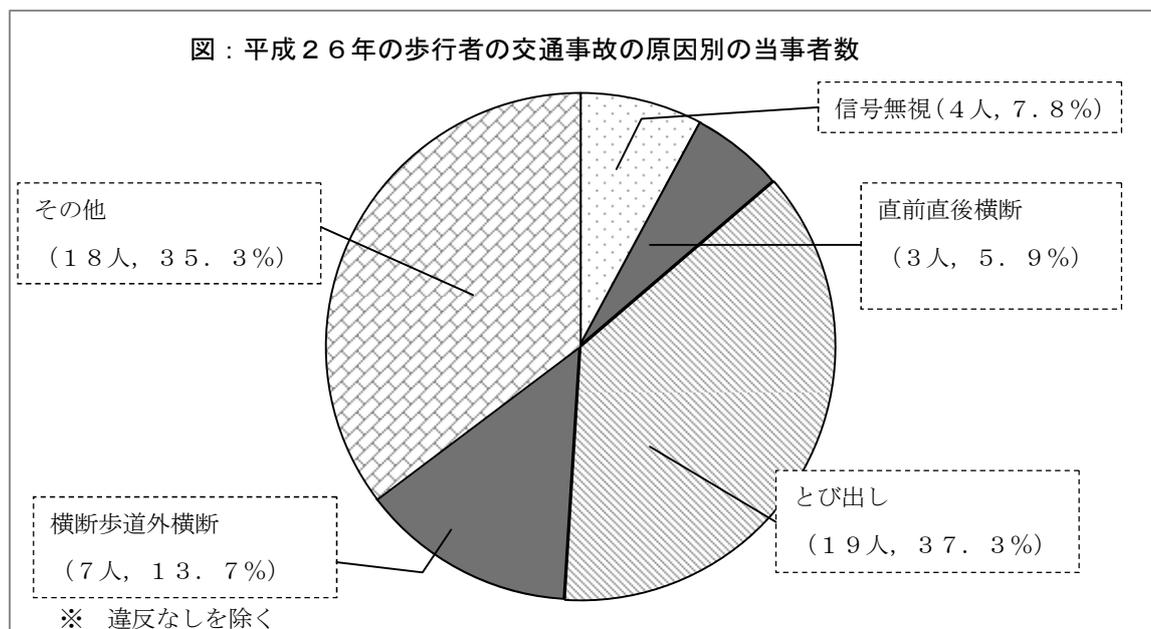
(資料：県警提供資料の分析による)

(10) 歩行者の交通事故

歩行者の交通事故当事者数は、平成22年から減少傾向となっている。全交通事故全体に占める割合は増加傾向にある。事故原因別では、「とび出し」「横断歩道外横断」が多く事故の51%を占めている。



(資料：宇都宮市の交通事故)



(資料：宇都宮市の交通事故)

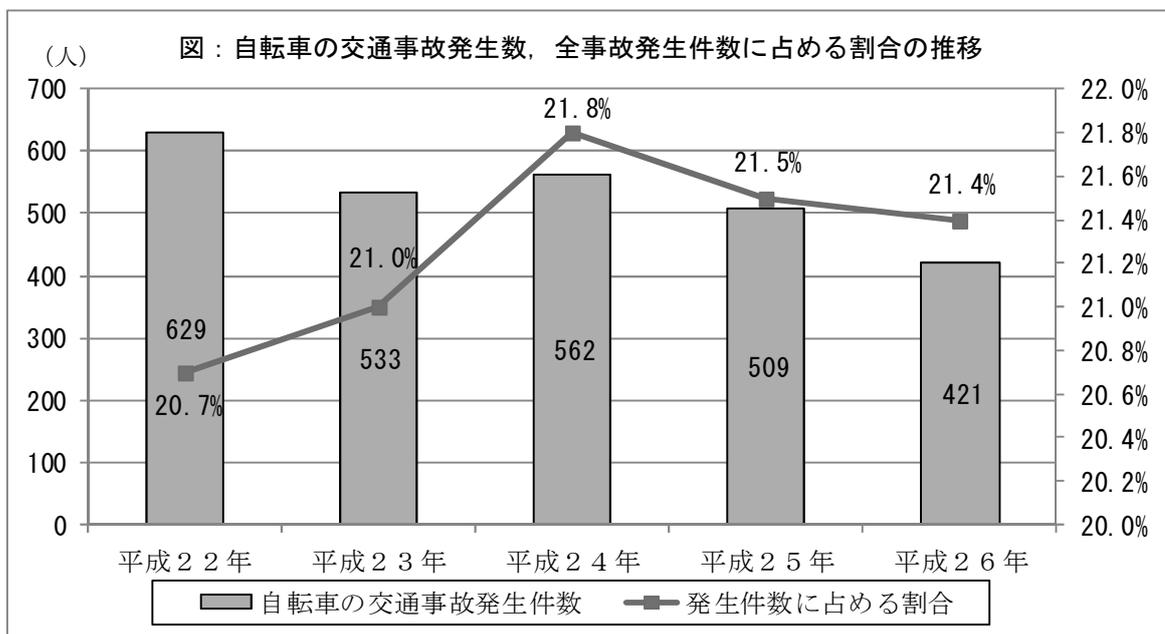
(11) 自転車の交通事故

自転車の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、交通事故全体に占める割合は21%台が続き横ばい状態である。

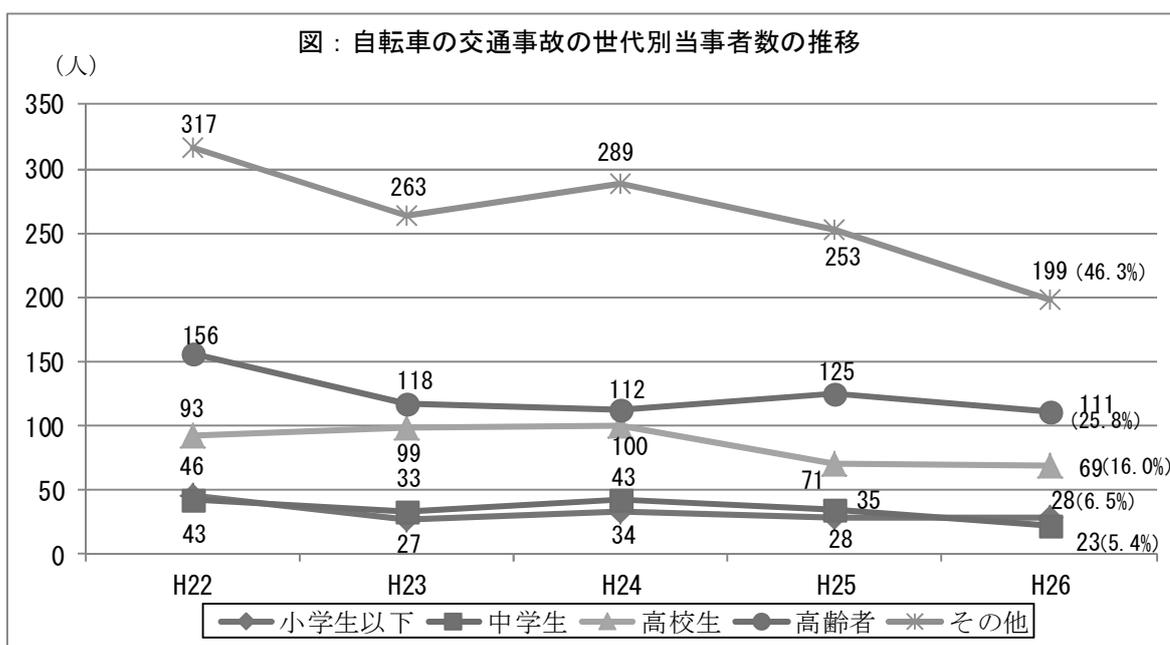
自転車の交通事故当事者数を見ると、「子どもから高校生」と「高齢者」で53.7%を占めており、原因別では「交差点の安全通行違反」が40.6%を占めている。

自転車が関係する車両相互の交通事故の類型別発生状況を見ると、89.8%は交差点等（出会い頭、右左折時）で発生している。

自転車と歩行者の交通事故発生件数は、平成22年以降、2～5件を推移している。

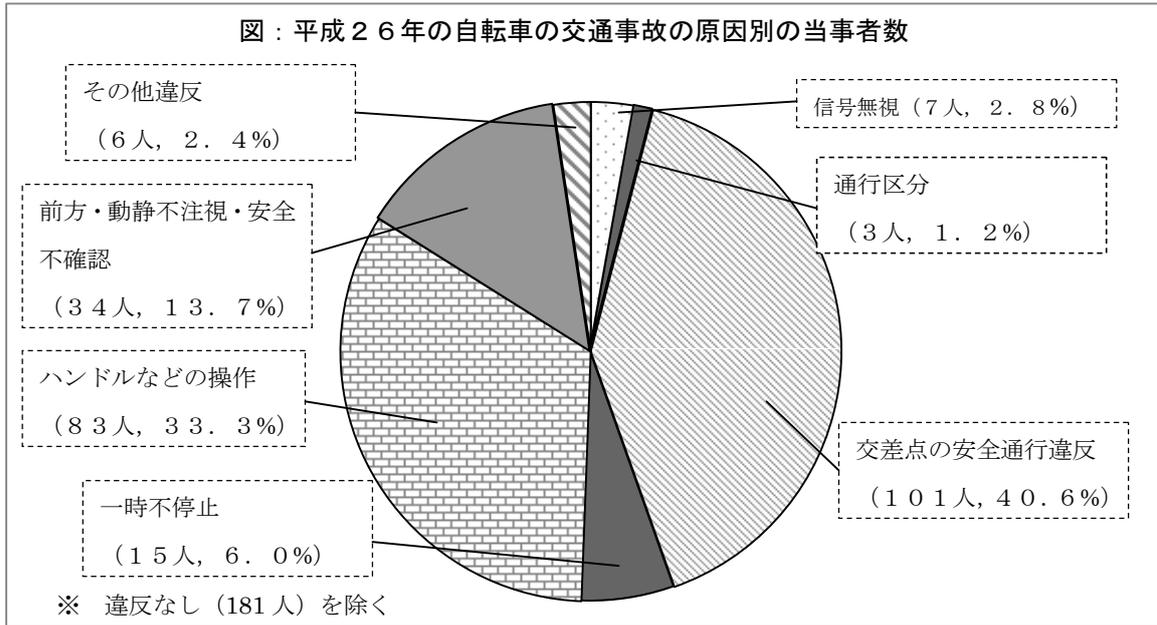


(資料：宇都宮市の交通事故)



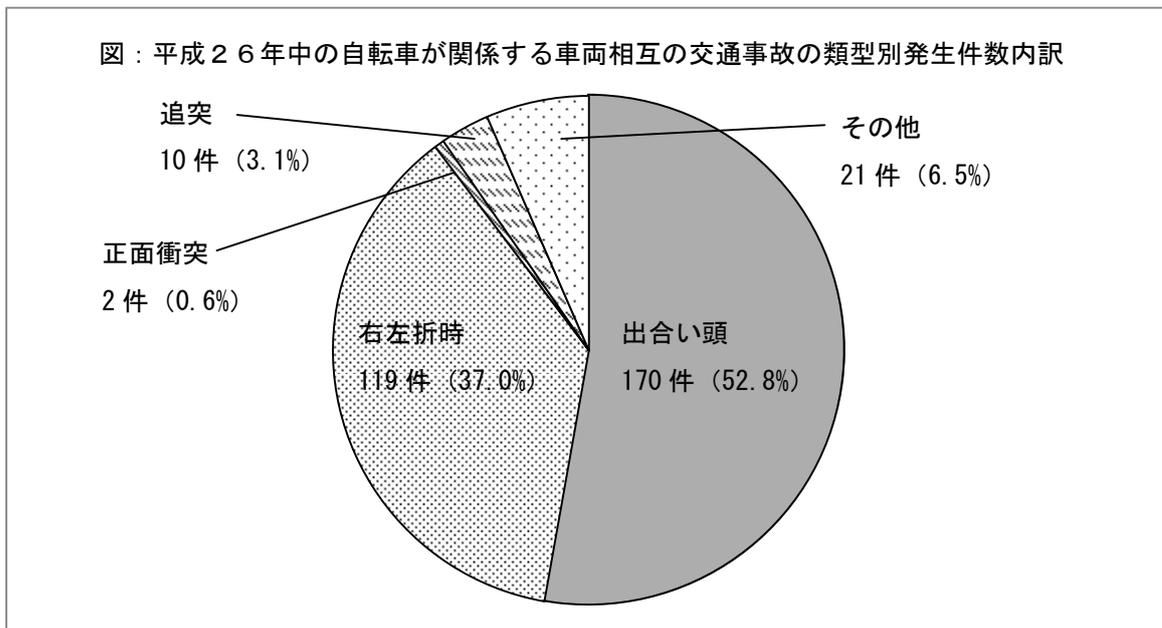
(資料：宇都宮市の交通事故)

図：平成26年の自転車の交通事故の原因別の当事者数

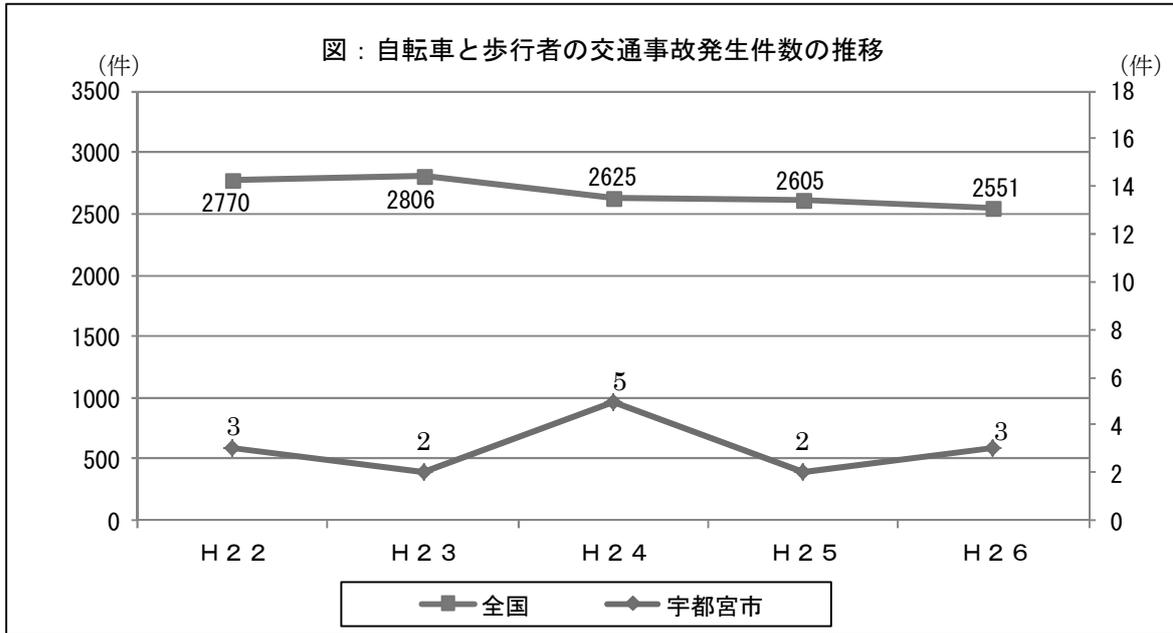


(資料：宇都宮市の交通事故)

図：平成26年中の自転車に関係する車両相互の交通事故の類型別発生件数内訳



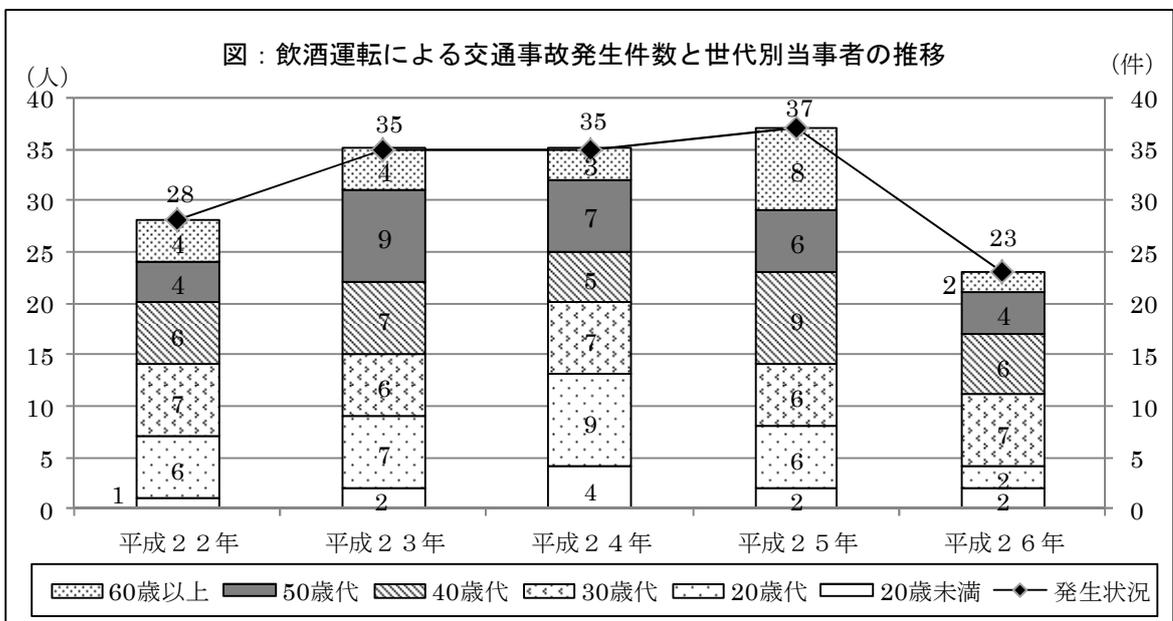
(資料：県警提供資料の分析による)



(資料：宇都宮市の交通事故)

(12) 飲酒運転による交通事故

飲酒運転による交通事故は、平成25年まで増加していたが平成26年は大きく減少した。年代別では、特に20歳代から50歳代が多くを占めている。

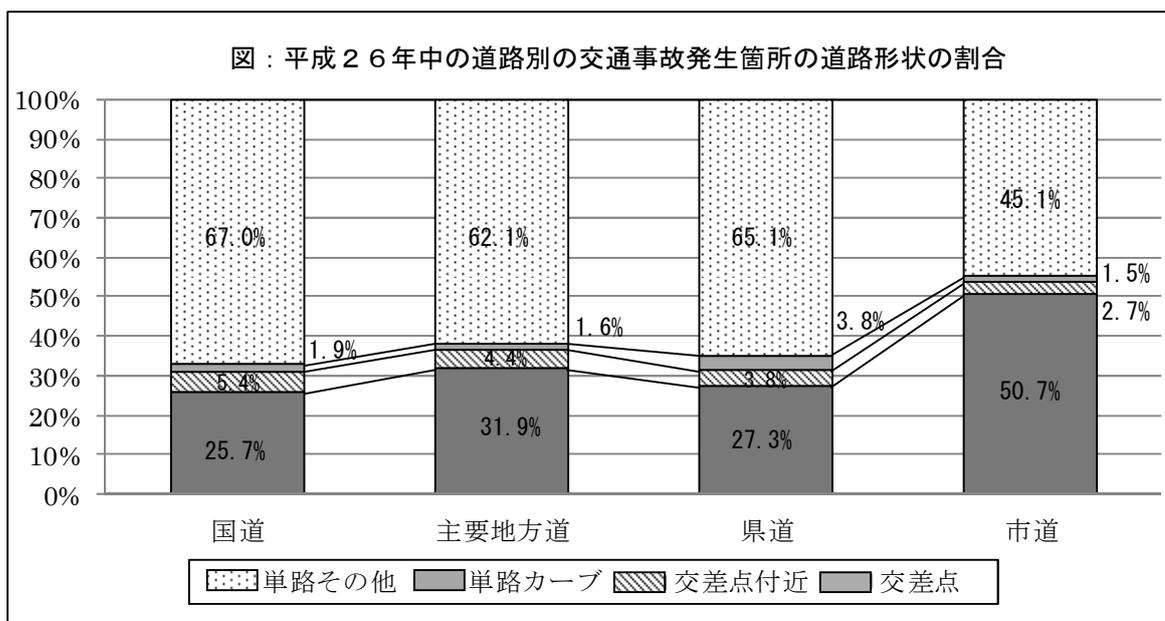


(資料：宇都宮市の交通事故)

(13) 道路別の交通事故（発生地点）

道路別の交通事故発生箇所の道路形状別の割合は、国道、主要地方道、県道では「単路」が多くを占めており、市道では「交差点」が多くを占めている。

道路別の交通事故発生件数は国道から市道まで全てにおいて減少傾向にあるが、交通事故の43.5%は市道で発生している。



(資料：道路事業概要，宇都宮市の交通事故)

【道路別交通事故発生件数と死者数】

(単位：件，人)

道 路 名	発生件数					死 者 数					
	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	
国 道	4 号	234	214	193	170	165	2				
	新 4 号	54	54	61	59	39	1		1	1	
	1 1 9 号	224	212	202	176	157		1	3	1	3
	1 2 1 号	100	90	76	60	79	3		2		
	1 2 3 号	72	51	69	70	48	1	3			1
	2 9 3 号	27	29	23	19	24	4		1		
	4 0 8 号	19	7	16	7	10					
計	730	657	640	561	522	11	4	7	2	4	
主 要 地 方 道	宇都宮・那須烏山線	32	39	30	48	24	1			1	1
	宇都宮・楡木線	34	26	15	24	17		1			
	宇都宮・栃木線	79	47	44	55	43		1			
	宇都宮・鹿沼線	32	40	35	45	38	1	1			
	藤原・宇都宮線	35	39	45	30	13					1
	宇都宮・今市線	37	42	35	41	22		1			
	宇都宮・向田線	115	99	102	75	65		1			1
	宇都宮・結城線	33	33	35	31	32			1		
	宇都宮・茂木線	15	9	8	6	6					
	宇都宮・笠間線	31	28	38	17	20					
	宇都宮・真岡線	26	25	24	13	20	1				
	大沢・宇都宮線	26	20	29	20	22	2		1		
	宇都宮・船生・高德線	1	2		1	3					
	宇都宮亀和田栃木線	86	74	58	83	55	2			2	
上横倉・下岡本線	9	15	9	7	5					1	
計	591	538	507	496	385	7	5	2	3	4	
県 道	氏家・宇都宮線	71	50	50	28	17		1			1
	羽生田・鶴田線	3	2	1	2	2					
	下岡本・上戸祭線	13	12	7	6	6					
	下岡本・上三川線	18	17	8	8	7					
	安塚・雀宮線	14	5	10	4	11		1	1		
	雀宮・真岡線	6	6	1	3	4					
	白沢・下小倉線	3	1	2		1					
	二宮・宇都宮線	27	23	27	30	21	1				
	小来川文挾石那田線										
	その他	16	7	33	39	37		1			
計	171	123	139	120	106	1	3	1	0	1	
市 道	競輪場通り	46	31	41	42	30			1		
	南大通り	23	17	15	12	11					
	平成通り	26	38	16	16	13					
	その他	1,314	1,032	1,110	1,002	802	9	6	7	7	7
	市道計	1,409	1,118	1,182	1,072	856	9	6	8	7	7
その他	142	99	108	114	97				1	1	
合計	3,043	2,535	2,576	2,363	1,966	28	18	18	13	17	

(資料：宇都宮市の交通事故)

【道路別実延長（平成26年4月1日現在）】

国 道	県 道	市 道
1 3 2, 3 1 4 m	2 1 3, 8 2 5 m	2, 9 7 1, 9 9 9 m

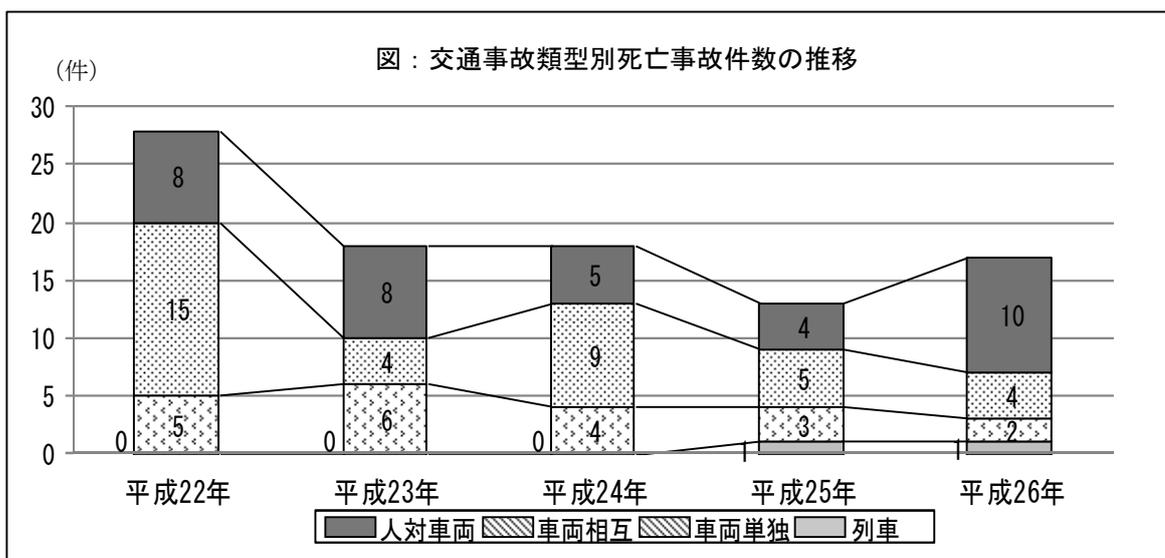
(資料：道路事業概要)

(14) 死亡事故

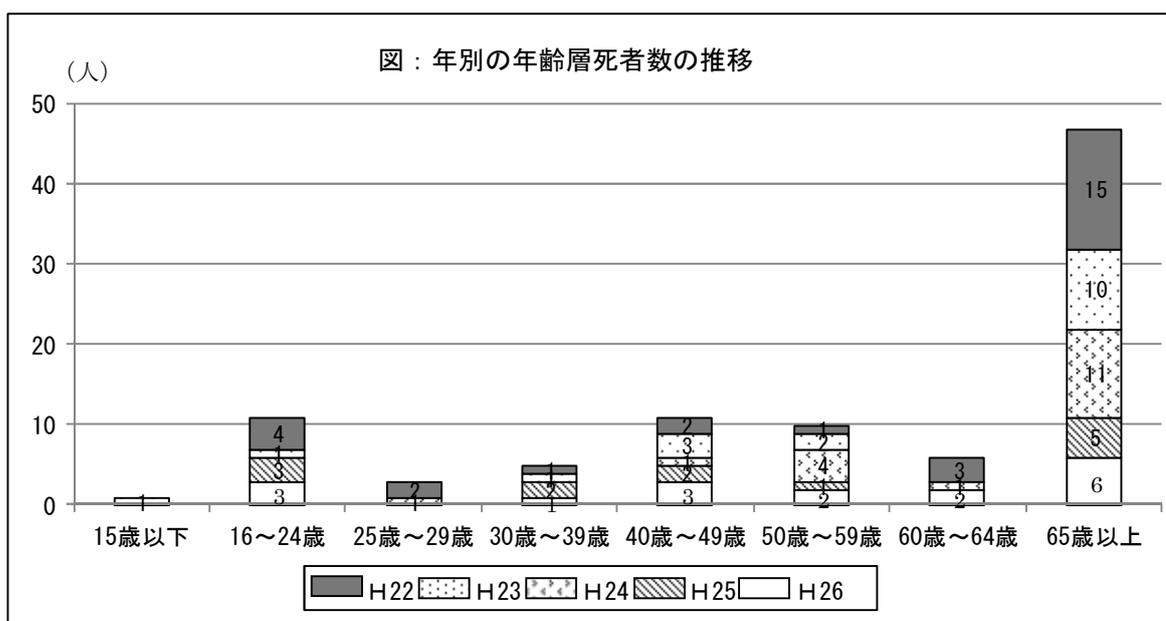
類型別発生件数では、「車両相互」が減少傾向にあり、平成26年には「人対車両」が増加した。人対車両の事故では、「横断歩道」「横断歩道付近・その他横断中」で71.4%を占めており、車両相互の事故では交差点での「出会い頭」「右左折」で54.1%を占めている。

年齢層死者数では、高齢者が全体の50%を占めている。

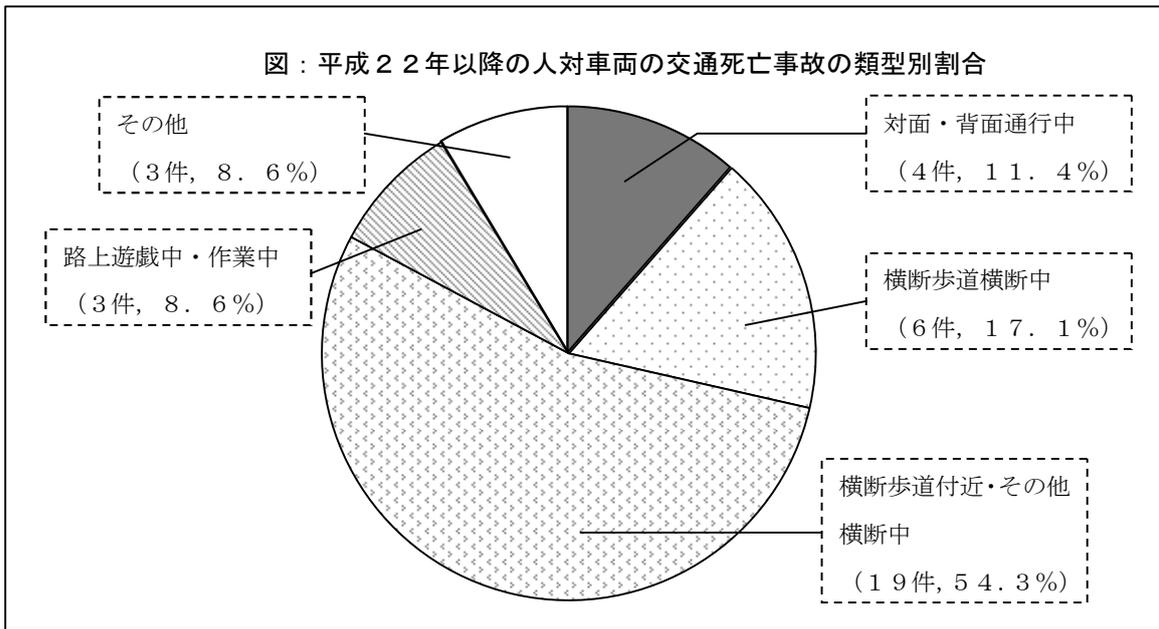
また、車両乗車中の死者のうち57.1%がシートベルトを着用していなかった。



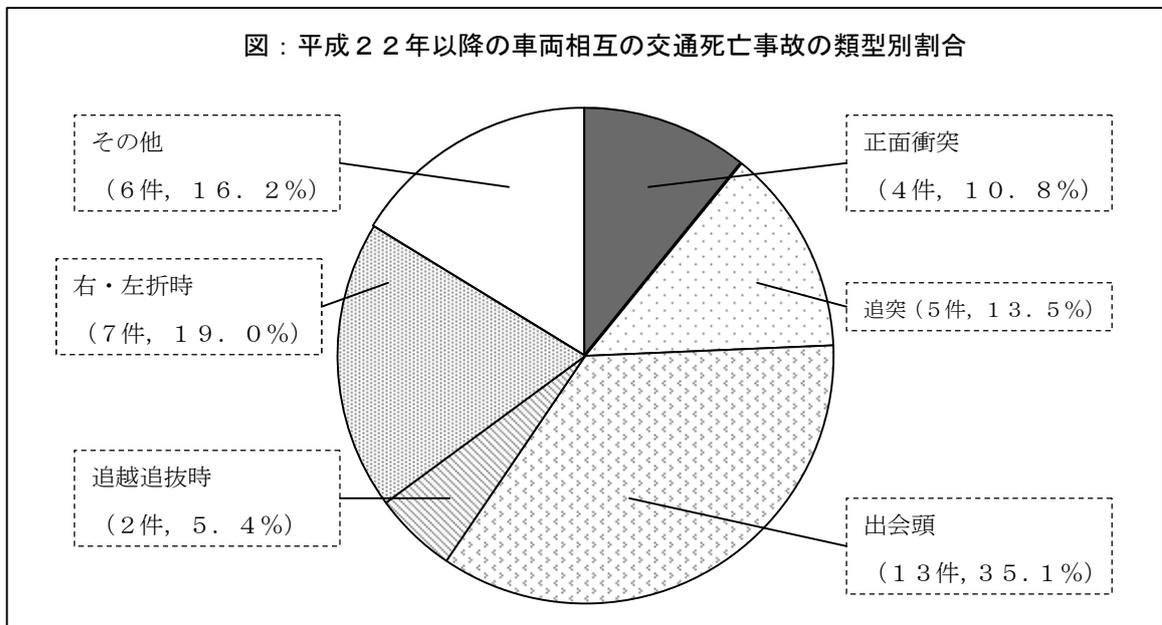
(資料：宇都宮市の交通事故)



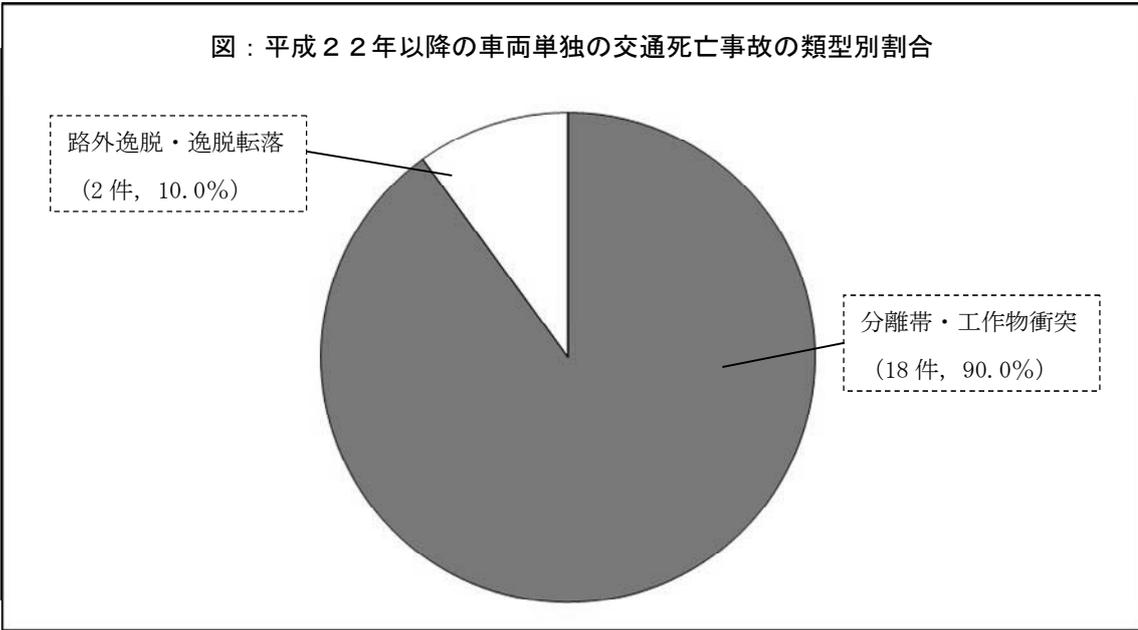
(資料：宇都宮市の交通事故)



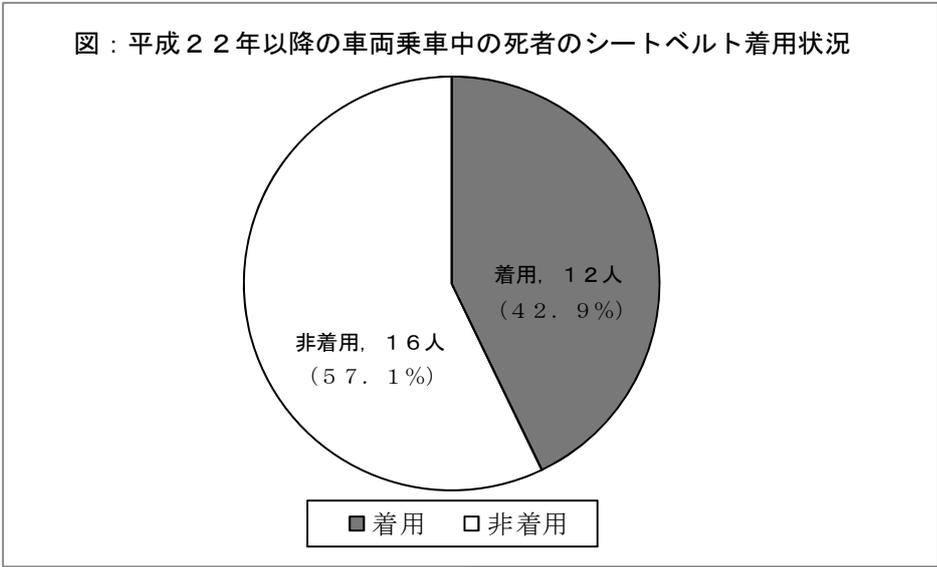
(資料：宇都宮市の交通事故)



(資料：宇都宮市の交通事故)



(資料：宇都宮市の交通事故)



(資料：宇都宮市の交通事故)

3 本市の交通事故の特徴

(1) 交通事故発生状況に関するもの

- 交通事故発生件数，死者数，負傷者数は減少傾向にある。
- 月別の交通事故発生件数，死者数とも10月が最も多い。
- 時間帯別の交通事故発生件数では交通量の増加する通勤・通学の時間帯（8～10時）と帰宅の時間帯（16～18時）に多発している
- 死者数は夕方から深夜・早朝（16～8時）までの時間帯が多い。
- 中核市の中で，人口当たりの交通事故発生件数は中核市平均を下回っているが，死者数は上回っている。

(2) 年代別

① 幼児・児童

- ・当事者の82.6%が「二輪・四輪車乗車中」
- ・児童は「歩行中」「自転車乗車中」が58.6%

② 中学生・高校生

- ・中学生の当事者の67.6%，高校生の当事者の70.4%が「自転車乗車中」

③ 若者（16～24歳）

- ・人口10万人当たりの交通事故発生件数及び死者数が多い。
- ・「四輪乗車中」が89.3%

④ 25歳～64歳までの世代

- ・「四輪乗車中」が多く全体の94.7%を占めている

⑤ 高齢者（65歳～）

- ・全交通事故に占める高齢者の交通事故の割合は増加傾向にある
- ・全体の死亡事故のうち高齢者が占める割合は50%（H22～26）を占めている。
- ・第1当事者の世代別では高齢者が占める割合が増加傾向
- ・状態別では「四輪車乗車中」が64.7%，「自転車乗車中」が17.4%
- ・歩行中，自転車乗用中の事故では，他の年代に比べ住所地から500m以内で事故に遭う割合が高い。

(3) 事故類型・状態別

① 車両相互

- ・全交通事故の85.4%を占めている
- ・「追突・出会頭衝突」が75.6%
- ・原因別では「わき見」「安全不確認」など不注意によるものが50.1%
- ・全交通事故に占める自転車の事故の割合は21%台が続き横ばい状態
- ・自転車の交通事故は「子どもから高校生」「高齢者」で53.7%を占めている

- ・自転車の交通事故の原因別では「交差点の安全通行違反」が40.6%
- ・自転車の交通事故発生箇所は、交差点等（89.8%）で多く発生している。

② 人対車両

- ・歩行者の交通事故は、全体に占める割合が増加傾向にある。
- ・歩行者の交通事故の原因別では「とび出し」「横断歩道外横断」が51%

③ 車両単独

- ・車両単独の事故は増加傾向にある。

(4) 道路別

① 国道・主要地方道・県道

- ・「単路（カーブを除く）」で67.0%（国道）、62.1%（主要地方道）、65.1（県道）%を占める
- ・発生件数が減少している

② 市道

- ・全交通事故の43.5%が市道で発生している
- ・「交差点」が50.7%を占める
- ・発生件数が減少している

(5) 死亡事故

- 死者数は減少傾向となっている
- 夏から秋にかけて増加する傾向がある
- 「人対車両」の交通事故による死者が増加している
- 全体の死亡事故のうち高齢者が占める割合は50%（H22～26）を占めている
- 車両乗車中の死者の57.1%がシートベルト非着用

(6) その他

- 飲酒運転による交通事故は平成26年に大きく減少したが、23件発生している